

自著を語る



『跋扈する怨霊：祟りと鎮魂の日本史』

〈吉川弘文館 2007〉
〔所在〕図・展示棚/図・開架図書
〔請求記号〕210.36/Y19

山田 雄司 先生
人文学部・准教授

怨霊と聞くと、ちょっと怖いものという印象がありませんか？この図書は、怨霊に対する心の動きを通して「日本人とは何か？」を考えることができる1冊です。著者の山田先生は日本史の中でも霊や怨霊を研究する「異端」の道を進まれています。異端の道を歩む楽しさも語っていただきました。

作られた怨霊

日本人が怨霊を認識するようになった根底には、死後の世界に対する考えがあります。人は死後、安住の地へ行くものと考えられていますが、もし行くことができなかった場合に、霊魂はどのようになるのかと考えられるようになりました。そして、怨霊というものが自分を追いやった人々に対して呪つて出るという形で登場するようになったのです。しかし、単に相手に追いやられて非業の死を遂げたからといって、必ずしも怨霊になるわけではありません。その後、追いやった側が病気になるとか、天変地異が起きなければ怨霊とは思われません。また、追いやった側の立場から見ると、自分の非を認めることになるため、怨霊として認識しにくいはずですが、追いやられた側の周りの人が、自己の復権のために怨霊や噂を作り出したのではないかと思います。

社会を本来あるべき姿に戻す

なぜ怨霊の存在を信じる人がいるのでしょうか。また、社会へはどのような影響を与えていたのでしょうか。ひとつは、政治的な対立が奈良時代以降強まり、平城京や平安京といった狭い範囲で対立が起こることになりました。そのなかで自分の行動が良くなかったと感じる機会が増えたり、あの人は罪のない人を陥れたと噂が広まりやすくなったりしました。このような都市的な問題が怨霊の出現と関係があると思います。

もう一つの理由は、強引なやり方が反発を買ったことです。政争に巻き込まれて権謀術数を駆使して相手を陥れることをすると、やはりそれはやりすぎなのではないかという評価をされます。そして陥れられた人は怨霊になって祟り、追いやった人を呪つたと信じるようになったのだと思います。強引に相手方を陥れた場合、負けた側にもそれなりの理があるはずだと日本人は考えます。そして、たとえ負けた側に非があったとしても、死んだことで罪が償われたと判断します。怨霊は、怨霊を造り出した強引さを批判し、反対側に揺り戻すことにより、行き過ぎにストップをかける

長い歴史の中での怨霊

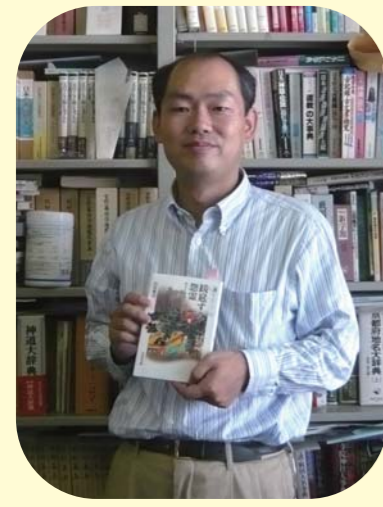
著書「跋扈する怨霊」の内容紹介をお願いします。古代から中世、近世、近代の長い歴史の中で、日本人の怨霊に対する考え方がどのようにして出てきて、なぜそういったものが盛んになって、どのように衰退していったのかという問題を考えました。怨霊は怖いものだという認識がありますが、それを歴史の中に位置付けて、誰がどんな意図で怨霊というものを認識し、いかに鎮魂していたのかを考えてみました。

日本人は霊を重んじる

先生は「日本人とはなにか」「日本人の信仰」について考えたとき、怨霊や霊魂は重要であろうとお考えですが、なぜ怨霊から日本人の特徴が見えてくるのでしょうか。また先生から見た日本人像を教えてください。怨霊とは、心が作り出した像であることから、現実のものより一層心の内面が反映されていると思います。世界全体から見たら、怨霊を認める民族は非常に少数派で、そこに日本人とは何かを探る力があるのではないかと思っています。日本人は、霊的存在を重要視し、日々の生活に感謝して大きな転換を好まない民族と言えるのではないのでしょうか。

二つに物事を決められないと二つに難しさをあつ

怨霊は、実際に目にする事ができません。目に見えないものを対象に研究することの特徴は、ご苦労などを教えてください。観念というものはすべての人が同じように持つていくわけではない点で難しいところです。目に見えるものであつたら、これはこうですと示せば明らかですが、観念的なものを具現化して提示するところに難しさがあります。怨霊もすべて



三重大生は、ほとんどの学生がおとなしくてまじめに勉強していると思います。でも、もつと学生時代に冒険をしてもよいのではないのでしょうか。私も学生の時に中国に1か月半放浪の旅に出たことがあります。いろいろなことに手を広げていろいろな分野の図書を読んで、難しい古典などにも挑戦することが必要だと思えます。学生の時にしかできない冒険をしてほしいと思います。

貴重なお話ありがとうございました。



READING LIST

これだけは読んでおきたい!!各 学部の先生からのオススメ本

人文学部 藤本真理先生

田中芳樹 著
『銀河英雄伝説』
徳間書店
〔所在〕図・開架・図書
〔請求記号〕913.6/Ta841/10

民主主義は良いと思う人で、その理由を説明できる人はどのくらいいるだろうか。本作は、世界制覇をめざす独裁帝国とそれに抵抗する民主主義勢力—彼らの祖國は衆愚政治に陥り崩壊—の戦いを中心とする、速い(架空の)未来の歴史物語である。祖國の民主主義の墮落と、敵國の良心的独裁を前にしても、彼らが民主主義を肯定するのはなぜなのか?また、本作ではカルト、テロリズム、文民統治など、現実世界の政治に通じる多様な要素が組み込まれている。それらに目を留め、自分で考えながら読み進めてほしい。

教育学部 松本昭彦先生

玉上琢弥 著
『源氏物語音読論』
岩波現代文庫
〔所在〕図・開架・図書
〔請求記号〕913.36/Ta 77

物語の読者には二種類あつた。女房の「音読」聞いて楽しむ姫君クラスと、一人、テキストを読む女房階級と。この本は、源氏物語の本文のいわゆる「草子地」の問題から、女房の「音読を聞く」という「読書」のスタイルを継述する。実態としてそのような読書の方法が一般的であったか否かは別として、物語本文から、その奥に隠れた物語享受の様式を解明する過程は、とてもスリリングで楽しい。文学作品を研究することの—典型として、読んでほしい本である。

医学部 内田敦子先生

ジョン・マン著・山崎幹夫訳
『殺人・呪術・医薬—毒とくすりの文化史』
東京化学同人
〔所在〕図・書庫/医・薬理学
〔請求記号〕491.59/Ma 45

絵画の中のお嬢様がうつろしたまなざしでこちらを眺めている理由は、中世ヨーロッパで信仰に利用された植物が原因かもしれない?!この本は、古代から人類と関わり深い自然界に存在する毒についての話に始まり、それらの毒が歴史を経て薬として使用されるに至った経緯、そして抗生物質や抗ガン剤など、広範囲の医薬が開発されてきた歴史について、興味深くつづられた本です。薬理学の基礎知識についてわかりやすく触れられていてとても参考になります。

工学部 松浦健治郎先生

榎文彦他 著
『見えてくる都市江戸から東京へ』
鹿島出版会
〔所在〕図・開架・図書
〔請求記号〕520.8/S/162

私が大学4年生の時、都市計画の研究室に入つて都市デザインの勉強をするぞつと意気込んでいた頃、悪友のジーンズのポケットには常にこの本が入っていました。彼は私に向かって「お前さあ、都市計画の研究室にいて、これを読んだことないなんて恥ずかしいぞ!!」と挑発してきました。その日から1週間ほどかけて夢中で読んで思い出があります。この本を読んだ後には都市のみかたが変わります。都市や建築に興味がある人はぜひ読んで下さい。

生物資源学部 田口 寛先生

西岡秀三 監修
『地球温暖化 この真実を知るために 地球温暖化 全人類に突きつけられた最大の課題 何が起きるのか?どう克服するのか?』
ニュートンプレス
〔所在〕図・開架・図書
〔請求記号〕451.3/Ko 78

全人類に突きつけられた地球環境の最大の課題—地球温暖化。この100年間で、日本各地の平均気温は、約1度上昇しており、東京では、大都会に特有のヒートアイランド現象で、なんと3度も上昇していることが、気象庁のデータからわかっている。このままのスピードで気温の上昇が続くと、いろいろな面で大変なことになると騒がれているが、科学的に分析し判断すると、何が原因で、何が起きるのか、どう克服すべきか?などについて、全ページカラー版で、最新の情報をわかりやすく解説した本であり、地球人の一般常識として、すべての人が一読すべき本であると思う。

共通教育 中川 正先生

『聖書』
日本聖書協会
〔所在〕図・書庫・土井文庫
〔請求記号〕190/8/2

アメリカ南部の大学院に留学していた5年間に、宗教景観調査のために数百人に聞き取りをした。その時に、天地創造やキリストの死、復活、再臨などの聖書の世界を現実のものとして信じている人が多くいることに気づき、大きな衝撃を受けた。博士論文を書くためには聖書の知識が不可欠であること痛感し、真剣に聖書を読んで勉強したことを覚えている。その時に身につけた聖書の知識が、今でも研究において貴重な財産となっている。